

雑司が谷母子神 威光山法明寺

近江 正典
おみ しょうてん



「私の宝石箱」



近江正典
おみ しょうてん

私は読書が苦手で、子供の頃から本を読み始める条件反射のように眠くなってしまっています。今でも本を開くと四、五ページも読み終わらないうちに眠気に襲われます。学生時代の図書館といえは快適な「仮眠室」でした。友人は本を読んでいるとその場が映像のように浮かんでくるのですが、私にはそうした想像力は全く具わっていないようで、文字で描かれた世界をイメージすることはできませんでした。

では本が嫌いかといえばそうではありません。私には二歳年長の兄がいました。兄は「本の虫」で読め始めると食事も忘れるほどでした。子供部屋の本棚には兄の読んだ本が何段も並んでいました。そこから気に入った本を取り出して「これなんぞ本？」と聞くこともあれば「お、お物語を面白く話してくれませう。不思議なことに兄の話には紙芝居のようなイメージがついて現れるのです。私は兄の話が好きでした。そうして本を開いたこともないのにほとんどのあらすじを覚えていました。

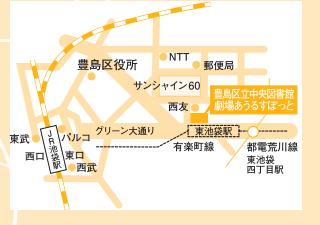
34号
第3季刊 (秋)
2014

図書館通信

トピックス

- 巻頭言 法明寺住職 近江 正典……………1ページ
- 古い本、新しい話 尾崎 真理子……………1ページ
- 粕谷一希氏と豊島区立図書館 伊藤 榮洪・水谷 千尋……………2ページ
- 生涯の一冊 株式会社ランドスコープ・平賀 達也……………2ページ
- 東京図書館制覇！ 竹内 庸子……………3ページ
- 図書館と私 上池袋図書館奉仕員 司書 渡邊 嘉子……………3ページ
- 横山光輝展……………4ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー……………4ページ

発行 ●豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五一一
ライズリーナビル四階・五階 〒170-0844
電話 ●03-3983-7861
FAX ●03-3983-9904
ホームページ ●http://www.library.toshima.tokyo.jp/
発行日 ●平成26年10月



新航路[32]

字が伝わり経典が記されるようになったため「私はこのように聞きまされた」から始まるようになったのです。文字によって経典はインドから中国を経て日本へと伝来しました。その長い歴史は「私はこのように聞きまされた」暗誦から始まったのです。

★巻頭随筆コーナーが変わります

前図書館行政政策顧問として長くご指導いただいた粕谷一希さんを追悼する記事や署名文があらゆる新聞や雑誌に掲載されており、あらためてその実績の大きさを認識させられています。ところで、図書館通信夏号の巻頭随筆も粕谷さんの Current & Encounter を掲載する予定でいました。そこへ突然の訃報で、やむなく別の原稿で埋めざるをえませんでした。しかし、問題はその後のもので、根強い人気のあるコーナーのあとをどなたに願いますかが大きな問題でした。そこで、浮かんだのが、生前粕谷さんのお話にたびたび登場されていた、また以前中央図書館の講演をお願いしたご縁もある、尾崎真理子さんでした。図書館通信の巻頭を飾る随筆を懇請して漸くお引き受け頂き、ほっとしたところです。大著、ひみつの

王国 評伝 石井桃子}が完成したばかりだったのも、タイミングとして幸運だったようです。いよいよ今号からスタートします。

★開館時間と休館日変更のお知らせ

10月から地域図書館の開館時間と休館日を変更しました(4ページをご覧ください)。また、図書館情報システム入れ替えのため年末12月29日(月)から27年1月14日(水)まで全図書館が休館します。期間中は予約、貸出期間延長など全てのサービス受付ができません。図書館のホームページの閲覧も自動音声応答システムからの各種サービスも利用できません。ご迷惑をおかけしますがご理解のほどよろしくお願ひします。

古い本、新しい話 ①

死してなお、励ます人

尾崎 真理子

粕谷一希君二十歳にして心朽ちたり」が世に出た一九八〇年、まさに二十歳だった私は、それを読んで記者を志した。試験を受けて新聞社に入り、地方支局等を経て文化部に配属され、著者と対面するまでにほぼ二十年を要した。その後、何度か取材に訪ね、ある時は四谷荒木町の店で杯をかわした。氏が中央公論社を辞した歳になっていた私は、具体的な目標を定めるよう論された。奮起して千枚書いた本が完成する間際、逝ってしまった。病床から震える文字で激励の葉書も頂戴していた。

それにしても、なぜ私は旧制第一高等学校の俊英、遠藤麟一郎の華やかな青春と、いち早く朽ち始めたその生涯の実録二十歳にして「に、あれほど打たれたのだったか。氏はなぜ、再出発にあたってこの題材を選んだのか。久しぶりに再読すると、抱いていた印象とまるで別の様相が現れ、驚いた。「中央公論」編集長の肩書を潔く脱ぎ去り、謙虚に、地道に取材を重ねるジャーナリスト、いや、その前に一人の誠実な人間像が等身大で迫ってきた。この作品は、粕谷氏自身の肖像だったのである。

七十年近くも昔となった敗戦後の混乱期に、文科エリートたちがあつた文学、哲学の毒。社会に出た彼らからめ捕られた労務抗争という新たな戦。戦後民主主義、高度成長の機運に同調することを拒んだ、《常在高貴》遠藤の悲劇を描きながら、一高の白線帽を被った間だけの真理の探究とは何事か、インテリとは何だと、粕谷氏は自問し続けている。そして、自覚していた以上に私は深い影響を受けている。一高の寮という《密室の王国》(小宇宙)。本書に学んだいくつもの言葉を、自分の本の要としていた。二十歳で読んだ本は古びるどころか、再び新しくなった。著者は死してなお、私を励ますのだった。

(読売新聞編集委員)



1959年宮崎市生まれ。青山学院大学文学部卒業後、読売新聞東京本社に入社。93年より文化部記者として文芸春秋一欄をおよそ10年担当。現在、読売新聞編集委員。著書に「ひまわり」(講談社)、「現代日本の小説」(ちくま)、「新書」(潮)、「瀬戸内寂庵に聞く臨川文学史」(中央公論新社)、「大江健三郎作家自身を語る」(大江氏との共著、新潮社)など。

昭和31年 千葉県浦市生まれ。昭和54年 立正大学仏教学部卒業。昭和55年 日蓮宗新聞社編集部勤務。昭和60年6月 威光山法明寺執事に就任。平成20年2月 威光山法明寺第五十世継承 現在に至る。

生涯の一冊

33



書名：『スティル・ライフ』
著者：池澤夏樹
発行所：中央公論社
発行年：1988年2月



株式会社ランドスケープ・プラス
代表取締役 **平賀 達也**

都市環境の再生を掲げ、地域の人々の大切な思い出や風景を守りつなげるランドスケープのデザインを実践。東京工業大学、東京農業大学の非常勤講師を務める。

『スティル・ライフ』

私は都市の環境をデザインするランドスケープ・アーキテクトという職業を生業としています。縁あって2015年春に完成する豊島区新庁舎の設計に携わりました。新庁舎は世界最先端の安全性能や環境技術を持つ建物でありながら、豊島区の地域文化や自然環境を展示する環境ミュージアムのような施設を目指しています。地球規模の環境であれ、ベランダに咲く一輪の花であれ、自然とのつながりを大切にしたい生き方こそ、現代の環境問題を紐解くヒントがあるのではないのでしょうか。私がおそらく考えに至るきっかけとなったのが、高校生の時に出会った池澤夏樹さんによる『ス

ティル・ライフ』という一冊の本です。
当時、文系理系という枠組みや学校教育そのものに違和感を覚えていた私は、工学系の大学に学び齊川寛を受賞した作家の小説があると知り、近所の本屋で手にとったのがこの本でした。「この世界がきみのために存在すると思っていけない」という最初の一文に私の心は瞬間に掴みとられました。文学や数式の本質に触れることなく、文豪小説の断片や使い勝手のよい方程式を暗記するだけの授業に異を唱えていた私は、やがて学校生活から孤立し自分の内なる世界に閉じ込めてしまっていました。そのような状況の中で「例えば星を眺

めながら自分の外にある世界と自分の中にある世界の呼応と調和を図ることが大切だ」と諭す池澤夏樹さんの世界観にどれほど救われたことでしょう。ハブル期特有の社会的背景もあつたのでしょうか、見えない力に扇動され全員が同じ方向に向かって歩いているような風景の違和感に対して、学校の先生や大人たちが決して答えてくれない、自分が本当に知りたかった本質がこの本には書かれていると思いました。
いまでも物事の本質を知りたいと思つて気持ちが設計活動の原点となっています。先日、新庁舎の仕事を感じて「まるで地球の遠くから眺めているような視点を感じる」との言葉を恩師からいただきました。一冊の本が教えてくれた世界観がいまも私の心にあることに思い至り、十代の頃の自分にありがとくと伝えたくになりました。

粕谷一希氏と豊島区立図書館

平成26年5月30日に永眠された粕谷一希氏(かすやかずき) 前豊島区図書館行政政策顧問の豊島区立図書館における足跡と業績を、豊島区図書館専門研究員のお二人に話っていただきました。



昭和史研究会の皆さん、前列一番左が粕谷氏(平成22年撮影)

2008(平成20)年11月12日、13日開催「時代を愛する図書館サミット」を実行委員長として推進し、最終日に「マニフェスト」を発信した。同年7月5日から4か月5回にわたり実施した地域研究セミナー「昭和史と東京裁判」を主宰し、その後受講者が立ち上げた自主研究グループ「昭和史研究会」を顧問として指導して来た。

▼豊島区立図書館との関わり
2006(平成18)年1月12日、豊島区図書館行政政策顧問(2008年1月より豊島区参事)に就任。2007(平成19)年7月、現中央図書館オープンに合わせ創刊した「図書館通信」の編集指導、助言を行うとともに、巻頭随筆を自ら執筆した。
▼豊島区立図書館との関わり
2006(平成18)年1月12日、豊島区図書館行政政策顧問(2008年1月より豊島区参事)に就任。2007(平成19)年7月、現中央図書館オープンに合わせ創刊した「図書館通信」の編集指導、助言を行うとともに、巻頭随筆を自ら執筆した。

▼略歴：昭和5年稚司が谷に生まれる。東京都市立五中、一高、東京大学法学部卒業、昭和30年中央公論社に入社する。42年中央公論社編集長に就任。53年中央公論社退社。61年東京都文化振興会発行の季刊誌「東京」創刊・編集長に就任した。62年都市出版を設立、社長就任。他に「外交フォーラム」創刊など。
著書に「二十歳にして心朽ちたり」「中央公論社と私」・鎮魂 吉田満とその時代「作家が死ぬと時代が変わる」 戦後日本と雑誌ジャーナリズム」など。現在「粕谷一希理想集(全5巻)」が今年5月から刊行中。



中央図書館で行った粕谷一希特集展(平成26年7月25日～8月22日)

昭和30年代、地域図書館の建設、整備がすすんで、「図書館を地域文化の核にする」ということが叫ばれ、図書館をどう教育に生かすかが、教育界の華やかな話題になったことを、

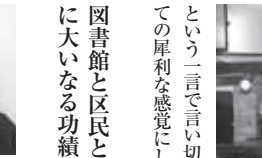
「図書館は貸し本屋であつてはならない」蔵書を持ち、利用者の便に應えるだけではいけない、性格を持たねばならない。その性格は、どんな書籍を収蔵するか、「選書」にすべてがかかるといふ意味を粕谷先生はいつも言われていた。ご自身で「選書をした」ぐらいの強い思いがうかがえた。まも胸の中にある。
粕谷先生、水谷委員ともども、共通の意識にあつた。粕谷先生がその話題のときに言われた一言が、いまも胸の中にある。



直観的な鋭さ——粕谷一希先生を偲んで
伊藤 榮洪
取り立てたわけではなくても、集まればいつも、「図書館のあり方」が話題になつてた。「地域図書館として中央図書館はどうあるべきか」というのが、粕谷先生がその話題のときに言われた一言が、いまも胸の中にある。



水谷 千尋
粕谷顧問の新中央図書館構想は、『中央公論』『東京人』編集長時代の雑誌編集精神と企画体験に原点がある。どくどくマンボウの北杜夫、「ローマ人の物語」の塩野七生はじめ著名作家や、時代を先取る学界論客を世に送り出すと同時に、時局にタイムリーな特集を企画、毎号巻頭言に健筆を揮い読者と対話した。稀代の編集長知的パワーがここに発揮された。豊島区立図書館が、書物との対話、求道者との対話の場であるために『図書館通信』を創刊しご自身



図書館サミットでマニフェストを宣言する粕谷氏

図書館と区民との文化的コミュニケーション形成に大いなる功績
水谷 千尋
粕谷顧問の新中央図書館構想は、『中央公論』『東京人』編集長時代の雑誌編集精神と企画体験に原点がある。どくどくマンボウの北杜夫、「ローマ人の物語」の塩野七生はじめ著名作家や、時代を先取る学界論客を世に送り出すと同時に、時局にタイムリーな特集を企画、毎号巻頭言に健筆を揮い読者と対話した。稀代の編集長知的パワーがここに発揮された。豊島区立図書館が、書物との対話、求道者との対話の場であるために『図書館通信』を創刊しご自身

思い出された先生の一言だった。
地域図書館としての中央図書館は、地域の教育、文化を支える基点でなくてはならない。その目的にそつて書籍・資料を収蔵していないかなくしてはならない。それを「貸し本屋ではない」という一言で言い切つた先生の、ジャーナリストとしての犀利な感覚にしばれた一言だった。

大特集の圧巻は「時代を愛する図書館サミット」開催であつた。作家、評論家、出版社、書店と図書館関係者が、新時代の図書館像と活字文化を討議し、豊島区から全国へ問題提起を発信する画期的なシンポジウムであり、文化界に大きなインパクトと影響をひき起こした。第一線の評論家として時代文化を深く洞察する顧問が、文化界有識者を惹きつけ、豪華講師陣が熱のこもつた対話を平成二十年十一月「あうるすぽっと」自由学園明日館で行つた。
当館は、新規開館以来七年余、多大な入場者数、講演講座・展示のユニークさ、スタッフの対話力で都内特別区中力強い活況を呈している。顧問の掲げた知的松明の熱度と照明力のお蔭であり、これを取り入れて行かなくてはならない。

が巻頭随筆を執筆、芳潤な名文を連載し多くの愛読者を集めた。地域研究ゼミ「昭和史と東京裁判」は昭和史研究会に発展、六年間継続した。専門家講師の「鈴木三重吉と『赤い鳥』」連続講演会は熱心な聴衆を集め、豊島の街道道路、鉄道物語、江戸伝統民俗や由縁の落語等文化講座が開かれた。
併設する劇場「あうるすぽっと」とも連携、小沢昭一さんが「三遊亭團圓と正岡容」の題で終戦直後の池袋を小沢節で語り満場を唸らせた。上演中の三島由紀夫戯曲「朱雀家の滅亡」演出家宮田慶子さんが芝居の作り方や見方を語つた。気鋭の落語家柳家喬太郎師匠が「三遊亭團圓の面白さ、語る難しさ」を延廣眞治教授と対談した。

思い出された先生の一言だった。
地域図書館としての中央図書館は、地域の教育、文化を支える基点でなくてはならない。その目的にそつて書籍・資料を収蔵していないかなくしてはならない。それを「貸し本屋ではない」という一言で言い切つた先生の、ジャーナリストとしての犀利な感覚にしばれた一言だった。

東京図書館制覇!

人気ウェブサイト「東京図書館制覇!」管理人の竹内庸子さんに、図書館の魅力を紹介していただきます。

第3回

「私の本棚活用法」

「東京図書館制覇!」管理人 竹内 庸子



最近の図書館は便利で、読みたい本があったらインターネット予約し、届いたという連絡を待つだけでカウンターに行けば、広い書架から自分で探す必要なく読みたい本が手に取れます。図書館に入るなりカウンターへ直行、借りてきた本を返し、届いた予約本を受け取って、急いで帰ってしまう人も少なくないでしょう。でも、それだけではあまりにも勿体ない。今回は私の図書館書架の活用法をご紹介します。

鏡を見るように自分の心が反映されて見えるのです。ときには、心や体を癒す本ばかりが目に残って、自分が疲れていることに気付かされることも。時間があるときには、せひぶらりと書架を一周してみてください。そこで目に残った本こそ、今のあなたが欲しい本でしょう。

また、普段から棚を見て本を選んでいる人に試していただきたいのが、「最下段縛り」。今日は本棚の一番下にあるものから必ず一冊借りると決めて、本を探してみてください。やってみるとわかりますが、意識して見るようにしないと、下の段の本は見ているつもりで意外と見逃しているものです。手の届かないくらい高い段や、奥まった場所にある棚なども同様です。収納の都合で物理的に目が届きにくい場所に置かれてしまった本との出会いを、遊び感覚で作ってみるのも楽しいですよ。

これに関する本を読みたいと決まっている際も、図書館の蔵書の幅広さを活用したいです。経済問題や環境問題などが正解なのか、わかりにくい事柄について、主流の考え方や目立っている人の意見だけでなく反対意見の本もあれば、古い本から新しい本まで時代を越えた本が揃っているのは、図書館だからこそ。調べものときや何かを決めるの参考にする本を探しているときには、自分の意見やニーズにぴったりの本だけでなく、異なる意見の本



や焦点が少しずれている本にも目を通すことで、見方が広がります。何冊も読む時間がないときは、目次をみるだけでもいいと思います。

お気に入りの本を探す場合でも図書館は薦め。特に、絵本を読むようになった年頃のお子さんには、たくさんのお絵本に出会える図書館を活用して欲しいです。その際、大人の方に注意していただきたいのは、数多くの本を読ませることに熱心になりすぎないこと。同じ絵本を繰り返し読みたがるお子さんに対し、それはもう読んだから違う本にしなさいと大人が言う光景をよく見かけますが、それはせっかく見つけたお気に入りの本をないがしろにしてしまうものではないでしょうか。同じ絵本をまた借りてもいいし、本当に好きなよつなら買ってあげてもいい。お気に入りの一つお持ちを大切にあげてください。



豊島区郷土かるた

蔵書の幅広さという点では、書店では手に入らない本があるのも図書館の魅力です。地域コミュニティ誌のバックナンバーや自治体が発行している地域資料などは、地元の人知らない顔を教えてください。例えば、豊島区立図書館全館で「豊島区郷土かるた」を所蔵している(貸出も可能)のをご存知でしょうか。新しい建物から古い名所までが端的

に紹介されており、こんなスポットもあるのかという発見があります。

図書館の中に限らず、現代は社会全体に多くの情報が溢れている時代。そんな時代に生きていく私たちは、数多ある情報に溺れてしまったり、それらを活用できるかを問われているのかもしれない。その点、図書館では、探している情報が見つからないとき、図書館員さんに相談できるのも心強いです。本と出会える場所として、図書館はこれからも大きな存在であり続けることでしょう。

図書館と私 21

「子どもの目線で」

上池袋図書館 図書館事務員(司書) 渡邊 嘉子



児童担当をするようになって、おはなし会やブックトークなど直接子どもたちに本を紹介する仕事が増えました。普段の自分の本の関わりが大きく影響するため、常に緊張を伴うものではありませんが、その分思いがけないうれし体験をすることもあります。

フロアワーク時に、擬似おはなし会をしている様子を目撃したことがあります。友だち同士で、いつもおはなし会であつた「はじまりの歌」をうたうたつてから、紙芝居の読み聞かせをしていた子どもたち。とっても楽しそうであつた大人びて見えました。また、こんなことも。時々おはなし会を聞きに来てくれた高校生の女の子から「将来図書館司書になって、子どもたちに絵本や紙芝居を読み聞かせさせる仕事をしたい」と、なんと司書員に尽きる言葉をいただきました。

普段おはなし会をしていると、私たちの動きに興味をもって真似したり、お手伝いをしてくれるお子さんがいるのですが、そうだった二つ二つの経験もまた、図書館や本の楽しい記憶につながっていくのだなあと感じます。

子どもたちは、気に入ったおはなしは何度でも聞いてくれますし、同じ本を何度も借りていくお子さんもあります。本を選んで子どもたちに手渡す日常は、「この本を」と与える」という考えに陥ってしまつた危険性もありますが、本の中に自分の世界を見つけていける子どもたちの力には、「こちらが学ぶことがたくさんあります」。

子どもたちはなかなか大人のように要望を口にしてくれませんが、日常の中で発信される小さな反応をいかに感じ取れるかが、子どもの本の担当をしている者の務めのように思います。目線は子どもの高さで。子どもたちと一緒に作る図書館という気持ちを忘れずにいたいと思つた頃です。

図書館イベント情報

◆児童・あかちゃんおはなし会、文字・活字文化の日事業

- 各図書館の連絡先
- 中央図書館 3983-7861
 - 池袋図書館 3985-7981
 - 駒込図書館 3940-5751
 - 目白図書館 3950-7121
 - 巣鴨図書館 休館中
 - 千早図書館 3955-8361
 - 上池袋図書館 3940-1779
 - 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	10月 10月27日は「文字・活字文化の日」です	11月	12月
中央図書館 児童コーナー	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時 (12月は14日)	★5日・おはなしこうさく会 午後2時 ★26日・文字活字文化の日スペシャル 午後2時	★2日・おはなしこうさく会 午後2時 ★15日・豊島岡女子学園中学高等学校によるおはなし会 午後2時 ★30日・ボランティアによるおはなし会 (虹のポケット) 午後2時	★14日 0・1・2 あかちゃんおはなし会 午前11時 ★21日・冬のスペシャルおはなし会 午後2時
駒込図書館 (駒込地域文化創造館)	土曜日 午後3時 (10/4はお休み)	第1水曜日 午前11時	★25日・文字活字文化の日スペシャル 午後3時		★20日・おはなしのはこ クリスマススペシャル 午後3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 午後3時 (12/31はお休み)	最終水曜日 午前11時※ (12月は24日)	★22日・さくらんぼおはなしかい —文字活字文化の日スペシャル— 午後3時※	★12日・さくらんぼえいがかい 午後3時※ 「しっぽじまんのうさぎさん」(22分) 「ミッキーマウスのたのしいゆめ」(9分)	★24日・さくらんぼクリスマス会 午後3時※
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時30分	第1水曜日 午前11時	★18日・おはなしたんぼほ 文字・活字文化の日スペシャル 午後2時30分 ★25日・たんぼほえいがかい 午後2時30分 「うしろのせきのオチアイくん」(23分)	★22日・たんぼほえいがかい 午後2時30分 「スノーマン」(26分) ★29日・たんぼほこうさくかいスペシャル 午後2時30分 「クリスマスの壁飾り作り」	★20日・たんぼほクリスマスかい 午後2時30分
目白図書館 地下区民集會室	水曜日 午後3時 (12/31はお休み)	第1水曜日 午前11時	★22日・あいうえおはなしかい 文字・活字文化の日スペシャル 午後3時 「にほんごはたのしい!」	★26日・かきくけこうさくかい 午後3時 「えんとつサンタをつくらう!」	★17日・あいうえおはなしかい クリスマススペシャルおはなし会 午後3時
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分 (12/31はお休み)	水曜日 午前10時30分 (12/31はお休み)	★22日・ほんとおはなしかい 文字・活字文化の日スペシャル 午後3時30分		★17日・ほんとおはなしかい クリスマススペシャル 午後3時30分

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

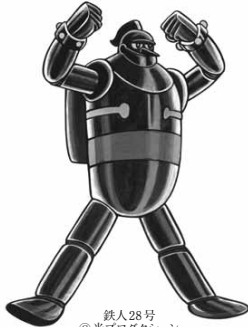
ミュージアム開設イベント 第1回

生誕80周年記念 横山光輝

YOKOYAMA MITSUTERU

— 昭和から平成へ マンガの鉄人が駆け抜けた軌跡 —

横山光輝(1934年神戸市生まれ)は、1955(昭和30)年にデビューしたのち、1960(昭和35)年豊島区千早へ転居します。その後没するまでの45年間、この地を拠点に多くの作品を創作してきました。今年、横山光輝生誕80周年を記念して、これまで公開されていなかった貴重な原画や原稿約50点をもとに複製を製作してご紹介します。また図書館と連携した特集展示も行っています。ぜひご見学ください。



鉄人28号
©光プロダクション

会期 平成26年10月1日(水)～18日(土)
ただし、6日(月)は休館

時間 9:30～17:00 最終入場 16:30
最終日 16:00まで 最終入場 15:30

会場 東京芸術劇場 5階 ギャラリー2
豊島区西池袋1-8-1

観覧料 無料

主催 豊島区

特別協力 光プロダクション

後援 東京芸術劇場

問合せ先 文化デザイン課ミュージアム開設準備グループ
03-3980-3177

★中央図書館 特集展示 10月23日まで

4階では、「伊賀の影丸」「三国志」「鉄人28号」「パビル2世」「魔法使いサリー」などのマンガ本を紹介しています。5階では横山作品が掲載された当時のマンガ雑誌を展示しています。

★千早図書館 特集展示 10月23日まで

館内に入るとすぐ、鉄人28号がお出迎えます。1階では、横山作品を集め、「一文で選ぶ横山光輝—横山光輝作品を読んでみよう—」という企画展示を行います。

千早図書館 友の会主催 「千早進歩自由夢月例会」

※11月・12月例会は申込不要です。

◆千早進歩自由夢(11月例会)
25周年記念講演会「源氏物語」「宇治十帖」への招待
—「伊勢物語」「初段」と「宇治の姫君」—

日時 11月22日(土) 10時から12時(開場:9時30分)
会場 千早図書館 2階 視聴覚室
講演 河地修氏

内容 「源氏物語」「宇治十帖」は、作者紫式部から読者に向けて、最後のメッセージとして創作されました。今回は、その世界への「招待」と題して、「宇治十帖」の最初のヒロインである「宇治の姫君」たち、「大い君・中の君」姉妹について「伊勢物語」「初段」との重なり合いに注目しながら考えてみたいと思います。この時代の「宇治」とはどのような土地であったのか、また「宇治の姫君たち」に与えられた運命とはどのようなものであったのか。我々は、これらの問題について、できる限り、リアルに考えてゆかなければなりません。紫式部が絶対的評価の対象とした「伊勢物語」の「深き心」に耳を傾けながら、作者最後の物語世界を覗いてみましょう。

定員 50名(先着順)

◆千早進歩自由夢(12月例会)
「組紐ひと筋に…」

日程 12月13日(土) 10時から12時(開場:9時30分)
会場 千早図書館 2階 視聴覚室
講演 平田晃氏

内容 平安時代には貴族の装束に、鎌倉時代には鎧兜に…。組紐は時代を組む歴史を誇る工芸品です。
①組紐の歴史について
②帯締めの話
③組紐の体験(人数制限あり)もできます。
豊島区には現在21人の伝統工芸士が活躍していますが、手織の組紐は平田氏のみです。
氏ならではの話しが伺える事でしょう。

定員 50名(先着順)

編集後記

秋になるとつい洋服を買ってしまう。「色が違う」「長さが違う」と言っても、気付けばクローゼットの中には同じようなジャケットが十着ほど……。今年もまた何着か増やしてしまおうな予感がします。(正)

中央図書館	池袋・目白図書館	駒込・上池袋・千早図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
<p>・開館時間・</p> <p>平日 午前10時～午後10時 土日祝 午前10時～午後6時</p> <p>10月</p> <p>⑤ 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛</p> <p>11月</p> <p>② ③ 4 5 6 7 ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p> <p>12月</p> <p>1 2 3 4 5 ⑥ ⑦ ⑧ 9 10 11 12 ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>・開館時間・</p> <p>平日 午前9時～午後7時 土日祝 午前9時～午後6時</p> <p>10月</p> <p>⑤ 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛</p> <p>11月</p> <p>② ③ 4 5 6 7 ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p> <p>12月</p> <p>① 2 3 4 5 ⑥ ⑦ ⑧ 9 10 11 12 ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>・開館時間・</p> <p>平日 午前9時～午後7時 土日祝 午前9時～午後6時</p> <p>10月</p> <p>⑤ 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛</p> <p>11月</p> <p>② ③ ④ 5 6 7 ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p> <p>12月</p> <p>① 2 3 4 5 ⑥ ⑦ 8 9 10 11 12 ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>・開館時間・</p> <p>平日 午前10時～午後7時 土日祝 午前10時～午後5時</p> <p>10月</p> <p>⑤ 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛</p> <p>11月</p> <p>② ③ 4 5 6 7 ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p> <p>12月</p> <p>① 2 3 4 5 ⑥ ⑦ ⑧ 9 10 11 12 ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>

巣鴨図書館は施設の老朽化に伴う大規模工事のため、現在休館中です。休館期間:平成27年3月まで(予定) 皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

10月から地域図書館の休館日・開館時間を変更します

変更内容

- ①月曜日休館の図書館と火曜日休館の図書館に分かれます
- 月曜日休館:池袋、目白図書館
- 火曜日休館:駒込、上池袋、千早図書館

※休館日と祝日が重なった場合は翌日を休館日としています。したがって、10月以降は休館日の振替はせず休館とします。

②土・日曜日、祝日の開館時間を6時まで延長します

中央図書館、雑司が谷図書貸出コーナーは変更ありません。

図書館カレンダー